

令和 7 年度 第 2 期 論文式刑法試験問題

受験上の注意事項

- 1 監督者の指示がある前に、この問題を開くことを禁止します。
- 2 試験開始の合図により、解答を始めてください。この試験では、六法を貸与し、その使用を許可します。
- 3 試験開始の合図の後、印刷不鮮明等に気付いた場合は、黙って手を挙げ、監督者に申し出てください。
- 4 解答は、答案用紙に黒インクのペン又はボールペンにより書いてください。
消せるボールペンや時間の経過により字が消えるボールペンは使用しないでください。また、鉛筆は不可です。
- 5 試験時間は60分です。
試験開始後20分以内及び試験終了前5分間は、答案の提出及び試験室からの退出はできません。それ以外の時間に退出（途中退出）する場合には、黙って手を挙げ、自席で答案及び問題を監督者に渡してから退出してください。
- 6 この問題は、試験終了後、持ち帰ることができます。
- 7 次のもの以外は机上に置かないでください。
受験票、筆記具、時計（計算機能等のないものに限る。）、眼鏡。
受験票は、氏名、受験番号が記載されている面を表にして、監督者が見やすい位置に置いてください。なお、上記以外のものについては、監督者の許可を得てください。
- 8 問題検討のためのラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題用紙に限り認めます。
- 9 携帯電話等は、必ず電源を切って鞆等にしまってください。
- 10 試験室内では、耳栓の使用はできません。
- 11 試験時間中の発病等やむを得ない場合には、黙って手を挙げ、監督者の指示に従ってください。
- 12 試験時間中の喫煙や飲食（ガム等を含む。）は、禁止します。
- 13 試験終了の合図とともに、直ちに筆記具を置き、監督者の指示を待ってください。
- 14 不正の手段によって試験を受け、又は受けようとした者に対しては、試験を停止し、合格の決定を取り消すことがあります。

〔刑 法〕

次の〔事例〕を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。

〔事例〕

甲は、金品を盗もうと考えて、V方住宅に、1階居間の無施錠の掃き出し窓から入った。そして、甲は、午後0時50分頃、1階居間で現金の入った財布を見つけて、その財布を手に持ったまま、V方玄関扉の施錠を外して外に出た。そして、甲は、停めておいた自転車で約1km離れた公園に移動し、同公園で盗んだ現金を数えたところ、現金は合計3万円であった。甲は、3万円では少ないと思い、再度V方に盗みに入ろうと考えて自転車でV方に引き返した。午後1時20分頃、甲がV方玄関の扉を開けようとしたところ、家人のVが帰宅していると気づき、敷地内の駐車場で自転車に乗ろうとした。その際、Vに発見され、甲は、逮捕を免れるため、ポケットからナイフを取り出し、Vに刃先を示し、左右に振って近付き、Vがひるんで後退したすきを見て逃走した。

〔設問〕

〔事例〕における甲の罪責について、具体的事実を摘示しつつ論じなさい（住居等侵入罪（刑法第130条）及び特別法違反の点は除く。）。

